うな事故を起こさないよ

と考えています」

事故が発生

経験の社長から話を聞く

験豊富な運行管

てみても、 ドライバー

ドライバーから

事故惹起

と提案することが大切だ

ないためにはこうしよう』はなく、『事故を起こさ

ある」と位置は

けている。

のは運行管理者の責務で 考え、指導を行って

うにするためには、

ノイバーに考りればならな

者との面談が行われる。

その際にも、

たほうが分かりやする

覧。その上で、「同じよからないような形で回

交通事故・労災事故を未然に防ぐため、特にドライバー未経験者への教育に力を入れて

個人名が分

事故を惹起した

こすな』と強明の場では、

と強く言うので 『事故を起こさ

『事故を起

線から安全運転を

同じドライ

有できる体制を整えた。

明の場では、

副次的効果も期待できる。

燃費も改善されるという

験がないばかりか、

トラックドライ

免許も取ったことがな

した交通事故に

長終的には全て

ともできる。さらには、

惨な事故を少なくするこ るようになることで、

あるという。佐賀社長は社していることも背景に

は考えていなかったとい社の経営を引き継ぐこと当初は病院に勤務し、同

遵法精神も置き去りにさ

がちな現実だったと

会する機会が非常に少なドライバー全員が一堂に

もあるが、

ドライバ

イバーを委縮させる頭ごなしに叱って

ば、運行管理者に対しては厳し管理者に対しては厳し

のではなく、

ドライ

したことから得られ

を大切にし、

スピードに合わせるようもあるが、乗用車の速い

と良い」

といわ

れること

に乗った運転を心がける

もって知ることができたの

身を

いる。

事例

日現在では戦後初め

強会終了後に、

を運転する際には、

多いということもあって、西などへの長距離輸送が

仕事の忙しさに追われて、初に感じたのは、毎日、

佐賀社長が入社

組みについてみてい

関東や東海・

防止への具体的な取り

行っている。一般的確保」を最重点に

故を起こさないようにす

り、職員も誠意をもって

事に打ち込んでいまれ

て事故防止に向けた説

ラックドライバーが注ことができなくなる。

速度をしっかり守ること

自分たちが車の流れ

ラックは法定速度を守る

全運転に努めてもらいた

いと思っています」

佐賀社長がそうした姿

るようにして

いる。ド

いるのである。 「ドライ

の勤務状況を把握

その理由を併記させ

ドを上げてしまうと、 に大型トラックがスピー

を行うようにしている。

のことを『怖

また翌日も、

月曜の朝に

参加できなかったドライ

を作ることができる。

も述べたように、 勢をとっているのは、

長が異業種から同社にす

に余裕のある運転ができ

を対象に同じように

説明を行う。

回も行う

ンスがしっかりとしてお基本的にはコンプライア

理者がドライバーを集めのドライバーがいる月曜のい。そこで、比較的多く

「病院というところは、

「心得5原則」策定し日々の業務に活かす連送会社としての理想を目指すために

㈱秋田エスエス商運 運転をする』 と感じるような

からお仕事をいただくこ

生活を維

持するこ

そして、

-は、荷主であるお客業「運送会社のドライバ

転を絶対に励行して、「私達は、

し、他人安全運

しては

「心得その3」

や地域住民から信頼され

化させ、

日頃の業務に活

りませんが、ドライバー事故惹起者に対しては怒

ているようです」(同)

ならない行動指針を定着

ーとして守らなければ

かすようにしている。

同社ではそれま

㈱秋田エスエス商運を紹介します。故の防止に取り組んでいる、秋田県秋田市組みづくりを構築し、交通事故・労働災害 今回は社内環境の改善とともに安全への

の事

原則を毎日復唱す

全員で復唱させている。を暗唱するのに続いて、

仃管理者がドライバーにしてもらうためには、運

ます。それは事故惹起者ということで厳しく叱り育が行き届いていない』

が心得5原則

のドライ

バーとして活躍

行管理者であり、一人前体的な指示を出すのは運

理者に対しては『指導教を教育する立場の運行管

作ることもしていない。

ることで、

社のドライ

く必要があります。事故対して適切に教育してい

って

いるようで、

直接指

に対しても間接的に伝わ

か発生した際には、私は

導しなくても事故惹起者

の気の引き締めに繋がっ

子を紹介してハます。
者の各企業での優良な交通事故防止対策の様

荷主であるお客様

に迷惑を掛けないように

と定め、

ジオ体操などで体をほぐ毎日の朝礼時には、ラ

かったが、佐賀社長が入でこうした朝礼の場はな

す方向を明確にした。 るような運送会社を目指

とても信じがたいものでませんが、私にとっては 送会社では当たり前にみ 般の車を煽るなど危険な法定速度を守らない』『一 られた光景なのかもし 『法令遵守 こうし 昔前の運 などと 地域住民からも愛される とができます。 運送会社であることも大

その中で、安全運転に関5原則」を策定した(表)。「秋田エスエス商運心得で、大量の行動指針として、

まず佐賀社長は、 思っていただけることが をするので、 客様や地域住民に 切だと感じています。 の経営継続に繋がつ の車は安全運転 安心だ』 ころの

や農産物の輸送なども行

/運送会社である。

運搬を中心に、

般雑貨

送会社に強く求められる「安心感」

故防止に磨きをかけて高い信頼を勝

佐賀社長は父親に次いで

2代目の社長ではあるが

ドライ

運行管理者が社員教育のキバーと同じ目線で安全指導

ーマンに

いる。

「事故を起こしたド

昭和56年に創業された。 佐賀氏の父親によって、

大事にすることを決断

のことである。

に入社したのは平成16年

さて、

状況を改善させるため、

運送会社としてあるべき

IP ARE

秋田エスエス商運 心得5原則

私達は、礼儀を正しくし、礼儀を重んじ、 私達は、お客様の製品を大切にし、責任ある輸送を心掛けます

私達は、安全運転を絶対に励行し、他人に迷惑を掛けないようにします。 私達は、お客様のあらゆる輸送ニーズにお応えするため、多種多様な積 荷の輸送に対応します。

私達は、お客様に満足して頂ける輸送を目指し、日々スキルアップに努 社後3年ほど経ってからかったが、佐賀社長が入

た。朝礼を始めた当初は、朝礼を実施するようにし

だ」と考えるドライバー礼に参加するのは面倒「朝早くから集まって朝

めています。

うにしたことで、ドライ 賀社長が率先して行うよ も少なくなかったが、

生しやすいという。

頓時などに労災事故が発ーが行う荷台の整理・整

送を終えた後にドライ

的多いという。

車で発生することが比較

朝礼終了後の説明の中

同社では、先に挙げた

の多い労災事故について、で、同社で発生すること

などを指導。

いるという。

「労災事故を防ぐた

ところで、

のではなく、社長が運行理者に役割を丸投げする 者は襟を正して「運送会 できていないと、 らないか」を全てのドラ のが多いことから、 こうした労災事故はドラ めには何をしなければな 実例を踏まえながら解説 バーの不注意によるも バーに説明している。

ては、ドライジ ればならない場合、 ています。

毎週月曜日の朝にドライバーを集め、事故事例を使った安全指導を行っている そうした心の甘えが労災 にも繋がってしまいます。 というドライバー せることで、ドライバー活に直結する』と意識さ は労災事故を起こさない 倒を見てくれるだろう』 ざという時には会社が面 社のために』となると、『 注意を払うようになる。 ように常日頃から細心の 災事故が自分や家族の生 す。そうではなく 事故の引き金にもなりま もらえなくなります。 給与も普段通りには には、

定を皮切りに、

東時間が長くなった際にれたために労働時間や拘束時間を帳票に記載し 中心となってドライバーを考え、それを実現させを考え、それを実現させて運送会社のあるべき姿 を教育していくような社 フイバーの労働時間や運行管理者に対して 佐賀社長は運行 なければならない」と きなくなる。ただ運行管対して説明することがで 社としてやるべきこと」 運送会社を目指すため をまず自らが確実に そして「事故のな 自分たちがドライ

ともあり、

県内の運送事

-となった。こうしたこ

年連続で全国ワースト

苦しんでいる。

な事柄から、

運転中や荷

業者はドライ

- 不足に

に参加し、 でいる。 験者は、まず1~2日 いとの思いから、 中心だったが、 運行管理者による勉強会 それとともに、

るケガで仕事を休まなけ 意を促している。 も通り働けなくなること 自分たちの生活を守るた め』であることを強調し を挙げて説明することで 『会社のためではなく 「労災事故防止に関し 労災事故によ の作業中の注

ライバー経験者の採用が同社でも、かごてしている。 はドライバー未経験者へ 般への発信力を強化したには、求職者をはじめ一 に舵を切っている。昨年 ライバー未経験者の採用 の安全教育にも力を注 ムページを開設した。 、まず1~2日間、採用された未経 自社ホ 同社で

に対して免許取得費用の 支援制度」が用意されて ーとしての心得を学ぶ。 同社では「大型免許取得 大型免許未取得者 プロドライバ 度の遵守」 という。 着々と進め、現在では交 通事故は大きく減少した

の確保」 突事故はほとんどなくな ったそうだ。 に減らしていくか」 とい しては「荷物事故をいか してきたこともあり、 方で、 」への指導を強化守」と「車間距離。特に、「法定速 目下の課題と

最終的には自分や家族の

会社の経営が継続でき、 みんながそうすることで、

おり、

の着いた企業になること ができたように思います。 間、ふらついていた組織「入社からこれまでの を固め、ようやく地に足

事故のない「安心」の追求が 業界のイメー ジアップにも資する

し、「心得5原則」の策ていなかった同社。 しかくり」 がほとんどなされ 時は「安全への仕組みづ としての安全体制強化を 佐賀社長が入社した当 運送会社 「お客様から依頼されたとなっていることから、ライバーの荷扱いが原因 う。 うことが挙げられるとい か」をドライバーに一 荷物をいかに大事に運ぶ 荷物事故は、 主にド

けた決意を佐賀社長に聞 きたいとしている。 最後に、事故撲滅に向

意識させるようにしてい

—■企業プロフィール■

させ、 これから自社がどうあるる自社のあり方も含め、 らには、 ことができるのです。 提供していくことで、 組みを着実に行い はないでしょうか」 くことで、 (取材協力) ㈱秋田エス います。 皆様に『安心』 業界のイメ

同社は関東・東海・関西などへの一般建材・建設資材輸送を中心に手がけている なく、 るのか』 ちの周りでは『今どう う事故が多く起こって そうすることで、 り込みながらタイムリ きことを、 や掲示物の作成には時 がかかるため、 かりやっていては、 にドライ、 しまいます。 決まったスケジュ が分かります。 バーに伝える。 また、

直近の事故動向をタイムリーに説明 考える契機となる週1 同社では労災事 回の安全指導

故防止も積極的に進めて を分析すると、 ウイング 同社における労災事故 べた通り、 ちなみに、

っているのは「自社におけ ることで、同じような事 る事故事例をタイムリー 事故防止教育の中心とな 全てのドライバーに対しに分かりやすく説明し、 いち早く水平展開させ 同社における これまで述

外部施設での研修など故を防ぐ」ことである。 未経験者への事故防止教育にも注力 マンツーマン指導で次世代に安全を繋ぐ

の進行が著しい。秋田県一方で、地方では過疎化都市への人口集中が進む 減少基調となり、今年45万人をピークに人口が 昭和31年の約13 東京など大 のため、 学校で大型免許取得に向 は会社で指導を受けると けて受講をし、午後から 未経験者もいるとい 午前中に自動車

導を受ける。ここでは、一によるマンツーマン指 ると研修期間に入り、見得者は大型免許を取得す などといった同社のドラ注文書や発注書の書き方 いとして先輩ドライバ 大型免許既取得者は勉 バーとして必要不可欠 また未取 不慣れで、 ていますが、 るため、 るため、新人ドライバーく発生する傾向がみられ てからのほうが事故が多 を起こすということはほ 乗務を始めてすぐに事故 せずに運転を行うことの 大型車の運転に慣れてき とんどありません。逆に、 には『慢心せずに、 「『未経験者は事故を起 を行うため、 慎重に運転操か、まだ運転に と考えられ 当社では

年、総務省まこう。、 で100万人を割り込んで、県の人口減少率はマニだ。県の人口減少率はマニ

重要性』を説いています」 役作業中の注意ポイント か月ほどで一人立ちし 2週間/ から には、何よりもまず日頃ないようにするにはどうないようにするにはどうないようにするにはどうないようにするにはどうないようにするにはどうは事故が多い。この会社域の皆様から、『この会社 者が事故防止を進めてい 事故防止への取り組みをに変わることが必要です。 様や地域の皆様に評価し りと築いていきたいと考べきなのか、礎をしっか ジもより高まっていくので たち運送会社は存続する ていただけるような会社 からの交通安全への取り 全ての運送事業 交通事故を撲滅 お客様や地 お客 さ

に新たな書類や掲示物を行うものの、説明のため



っかけにもなっています」 ないのか』をドライバ に能動的に考えさせるき 欠けるという点もありま いようにするためには何 してもマンネリに繋がって に気を付けなければなら ルで同じようなことば その時々で注意すべ毎週1回時間を決め 『事故を起こさな 受け身の学習では 事例なども盛 速報性に 自分た